研修報告　A 班１グループ　北から南まで

三者間の円滑なコミュニケーションの基に共通の課題を解決していける大学

…三者とは「学生」「教員」「職員」である。昨今の大学業界は、少子化が進んでいる一方、大学の数は増えており厳しい状況が続いている。そのような状況下で生き残っていくためには、大学は時代の流れや社会のニーズに合わせ改革を進めていく必要がある。そこで、三者の関係に着目してみた。

1. 大学の役割

「社会に有用な学生を輩出すること」が、大学の役割として世間に求められていると私達は捉えている。そのためには、「学生」「教員」「職員」の三者がそれぞれ主体的に動くことで多角的なアプローチから１つの目標を達成していかなければならないと考えた。

2. 大学の現状

大学において「学生」「教員」「職員」は、それぞれ独自に課題を解決しようと試みるだけで、三者間におけるコミュニケーションが不足しているという現状にある。ここでいうコミュニケーションの不足とは、①三者各々のコミュケーション能力の不足、②三者間でコミュニケーションをとる機会の不足を指している。

◇問題点◇

【学生】…大学の主人公である「学生」にとって、大学は自ら利用する場であるはずだが、多くの「学生」は、自分の考えを持たないうえに、自分の言葉で意見を伝えることを苦手としているため、大学にいる意味を見出せていない。

【教員】…自らが学ぶ専門分野にのみ対応し、学生の多様な考えを受容しない傾向にある。多様化する学生の変化に対応できていないと言える。

【職員】…多くの「職員」は、自ら発信して主体的に業務を行うのではなく、与えられた業務を行うのみで、受動的になりがちである。

↓

上記に見られるように、三者間のコミュニケーションが不足している。自分以外の二者とコミュニケーションをとらなければ大学全体を認識することは難しいだろう。大学全体を認識できなければ、課題や問題点を把握することもできない。つまり大学の改革は進まず、厳しい大学業界の中で生き残っていけなくなる。

3. 大学のイノベーションの提案

まず、前提として三者には、日常的に挨拶を交わしたり、休み時間に共に昼食をとったり、基本的なコミュニケーションをとるよう心がけていただきたい。

大学に求められている役割、大学の現状を踏まえ、三者または二者の関わる場面を増加させ、相互理解または自己認識を促進し、共同して課題を解決していくことができる土壌を築くことが重要であると考える。その実現のために、学生アシスタント、学生アルバイトの取り入れといった「学職協働」「教職協働」の促進、学外清掃など学生が主体となる学生活動への教職員の参加、といったアプローチを提案する。三者が相互に関わる機会、コミュニケーションをとる機会が増えることで、一緒に何かをしようという考えが生まれやすくなる。そして何かをしようとすると、必ずと言っていいほど何かしら課題が発見される。その発見された課題を解決しようとした際に、「学生」「教員」「職員」がそれぞれの職域を活かした問題解決の仕組みが生まれるだろう。その結果、三者が主体的に動くことで、多角的なアプローチから一つの結論に達することができる大学像を世間に示すことができるはずだ。

4. まとめ

今回の研修を通じて、大学が世間から変化を求められているように、大学職員に求められる能力も変化してきていると感じた。そのうちの１つに情報化が含まれている。厳しい大学業界での生存競争を勝ち残るためには、われわれ「職員」が積極的に「学生」「教員」に働きかけをし、改革を続けていかなければならないだろう。大学から抱かれる期待や大学の命運を握っていることを粋に感じて日々の業務を行っていきたい。

今回の研修のもう１つの目玉は【他大学との交流】であると思うが、他大学の「職員」と議論し意見交換できたということは、大変貴重な経験になったはずだ。今回の研修で得た繋がりを大事にしていき、今後も交流を続けるとともに切磋琢磨していければと思う。